

広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬	(株)		第一三共	(株)	ネキシウム
中外製薬	(株)	アクテムラ	田辺三菱製薬	(株)	ルパフィン

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：伊豫田 明
 編集委員：赤羽 悟美 弘 世 貴 久 池 田 隆 徳
 石井 良和 片 桐 由起子 近 藤 元 就
 三上 哲夫 水 野 雅 文 中 野 裕 康
 佐藤 二美 島 田 英 昭 和 田 弘 太
 編集顧問：杉 山 篤 津 熊 久 幸

(ABC 順)

編集後記

東邦医学会雑誌の英文誌への投稿数の増加に伴い、和文誌の投稿数が減少している。これは東邦大学医学部の研究者が国外に目を向けていることを意味しており、非常にうれしいことである。

私は、国際標準化機構 (International Organization for Standardization : ISO) の臨床検査及び体外診断検査システムを担当する専門委員会のうち、微生物検査と分子診断の国内意見取りまとめを担当している。ISO は国際規格の世界的相互扶助のための独立組織で、国家間に共通な標準規格を提供し、世界貿易を促進することを目的としている。ISO の会議に参加するうえで大切なことは、我が国の国益を損なうような規格文書の策定を阻止し、可能な限り我が国の国益にかなう文書を策定することにある。残念ながら、私の英会話能力は低く、思うように発言できずに悔しい思いをすることが少なくない。

食品安全の専門委員会からの医学微生物学の専門家として連携して欲しいという依頼を受けて、2018年5月14日から開催された全ゲノム解析による食中毒菌解析のための規格文書策定の会議 (スイス、ローザンヌ) に参加した。私が参加したサブワーキンググループは、アメリカ人3名、カナダ人2名、デンマーク人1名、日本人1名と英語を母国語とする人が大多数を占めていた。彼らの専門的な議論になると、それを理解することは難しかったが、私のアドバイスやコメントには十分に耳を傾けて規格文書に盛り込

んでくれた。今回の会議は国益とは無縁だったが、自分の言葉で情報を発信することの大切さに改めて気づく良い機会になった。2日間の会議が終了して記念撮影をした後、同じサブワーキンググループの人たちから労いの言葉を貰った時には充実感を感じた。

東邦医学会雑誌の英文誌への投稿数が増加していることは、東邦大学から海外へと、情報が活発に発信され、国際化が着々と進んでいることを意味している。掲載論文が、国際規格文書策定の際のエビデンスとして取り上げられるような日が来ることを切に願っている。

(石井良和)

東邦医学会雑誌 第65巻 第2号

平成30年6月1日発行

編集兼 伊豫田 明
 発行人

〒143-8540 東京都大田区大森西5丁目21番16号
 東邦大学医学部本館 3階

東邦大学医学会
 (振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077
 e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp
 http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原3-46-10
 株式会社 杏林舎